

地域福祉の背景

〈少子高齢化・核家族化の進行〉
わが国では、平成 37(2025) 年に 65 歳以上の人の割合は 28%になると推測されています。
現在は、現役世代 3.3 人で 1 人の高齢者を支えています。50 年後には 1.3 人で 1 人の高齢者を支える社会になることが予想され、今後、いわゆる団塊の世代の人たちが 65 歳以上となる平成 25(2013) 年ごろには、高齢化のスピードは一段と速まり、少子化や核家族化についても急激に進むものと考えられます。また、ライフスタイルも多様化し、人と人とのつながりはさらに希薄になってくることが予想されます。

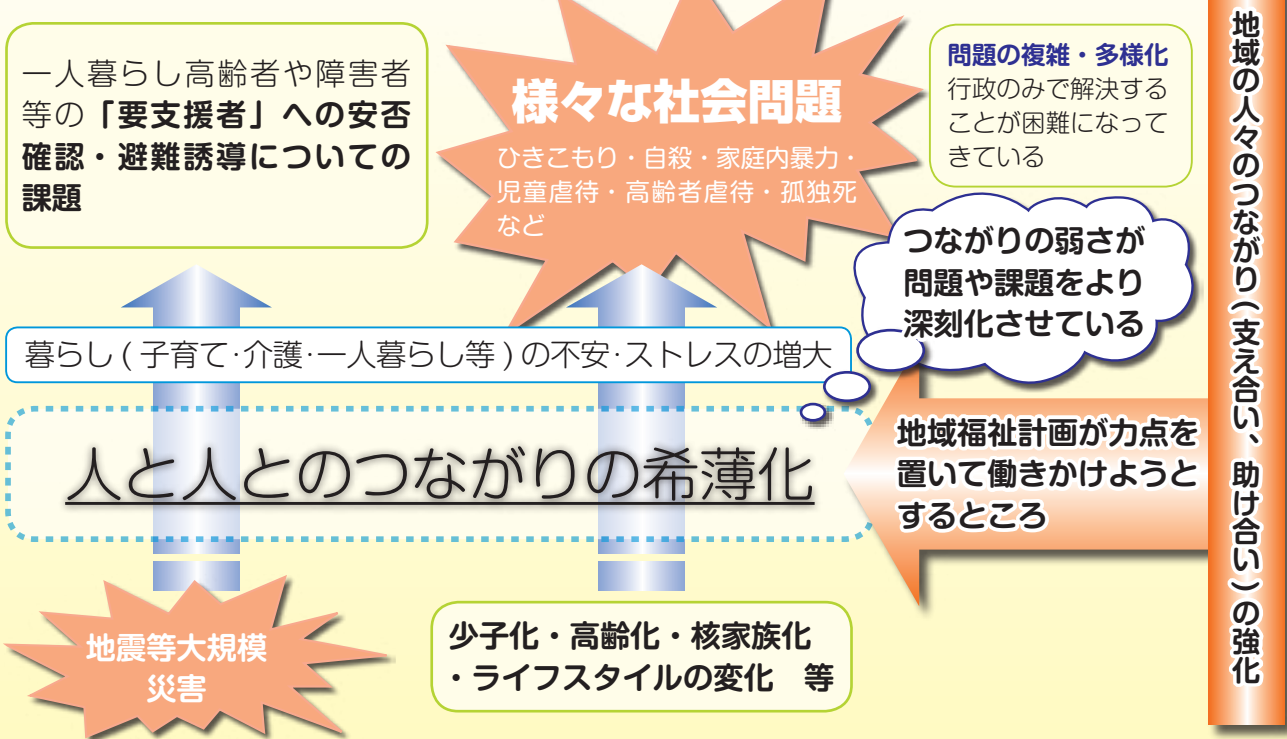
古賀市の人口推移

	人口総数 人	年少人口 (0～14 歳) 人	高齢者人口 (65 歳以上) 人	年少人口 割合 (0～14 歳) %	高齢者人口 割合 (65 歳以上) %
平成 13 年	55,896	9,538	7,308	17.1	13.1
平成 16 年	56,490	8,923	8,196	減 15.8	増 14.5
平成 19 年	57,100	8,423	9,353	14.8	16.4

(基準日：各年 3 月 31 日 資料：住民基本台帳)

今なぜ地域福祉が必要なの？

地域で日頃からお互いに助けたり、助けられたりする関係を作っておくことが、何か起こったときの安心の備えとなり、これが地域福祉の推進につながっていきます。



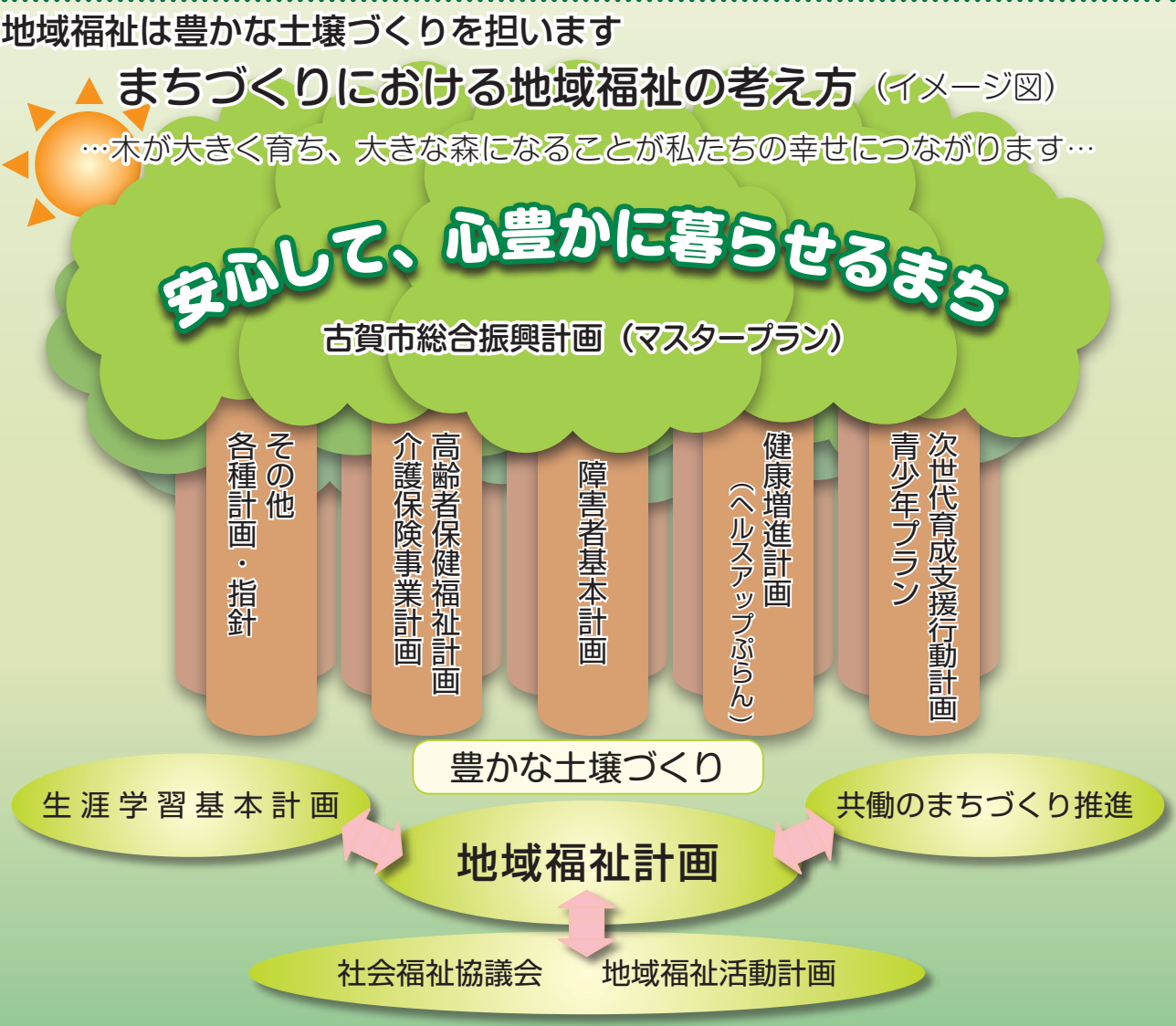
地域福祉計画とは・・・

「地域福祉計画」は、だれもが住み慣れた地域での助け合いにより、安心して生活を送るために策定するものであり、一人ひとりが地域の福祉に理解と関心を持ち、お互いが支え合いながら地域全体で支えていく仕組みを、市民と行政と一緒に考えていくことにしています。

「新・井戸ばた会ギ」の取組

- ハガキ、座談会、するん隊など市民がさまざまな方法で参加できる仕組み
- 地域福祉の推進には、一人ひとりの意識の変化が不可欠であり継続した取組が必要

計画づくりの反映



古賀市を大きな森にたとえると、私たちの住んでいる地域が「土」であり、行政のさまざまな計画が「木」とであると考えられます。木が大きく育ち、私たちが心豊かに暮らせるようになるためには、まず土を耕し、豊かな土壌にしていくことが大切です。

理念と基本目標

理念「こまったときはお互いさま、たより合えるまち。」

基本目標

理念を実現するために、次の 4 つのキーワードを基本目標に掲げ、地域福祉の推進に取り組んでいきます。

啓発 ～意識づくり～

《目指す姿》

- 地域の小さな助け合いを推進するまち
- 隣近所でお互いに声かけするまち
- みんなが、地域福祉の理念を、自分のものとして考えるまち

環境 ～居場所づくり～

《目指す姿》

- 身近な地域の中で、だれもが気軽に集える場のあるまち
- 身近な地域の中で、だれもがその人らしく生活できるまち

連携 ～つながりづくり～

《目指す姿》

- 人と人とがあたたくつながり合えるまち
- 地域にいる人・地域にあるものが活かされるまち
- ご近所、行政区、校区などさまざまなエリアどうしの連携のあるまち

安心 ～笑顔づくり～

《目指す姿》

- 孤立してしまう人のいないまち
- 地域に出て行きやすい、人と人がふれあいやすいまち
- だれもがその人らしく、心豊かに笑顔で暮らせるまち

地域福祉の推進に向けて

本市が今回策定する地域福祉計画は、地域福祉推進の基本的な方向性を定めた『理念編』として策定するものであり、今後これを踏まえつつ、具体的な取り組みを位置づけた『推進編』と、平成 20(2008) 年度に見直しを行う「地域福祉活動計画」(古賀市社会福祉協議会)の策定について一体的に取り組むことで地域福祉を推進していきます。

地域福祉の推進という一つの目的に向かって、市民、行政、各種団体等がそれぞれの役割を担いながら、共働して取り組んでいきます。

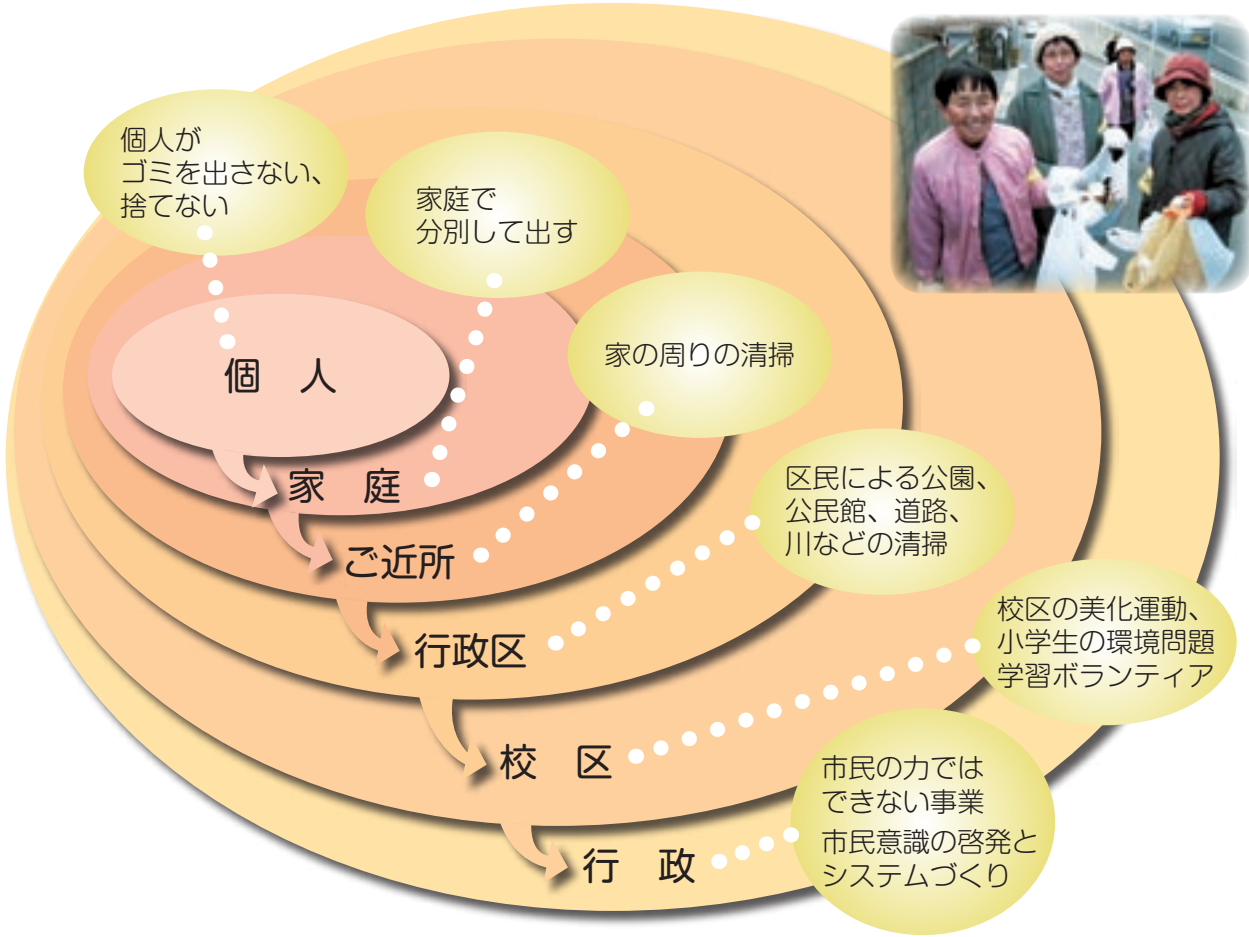
目指す人と人とのつながりのある地域とは

●●● 人の輪の広がり ●●●

下の図のように、人と人とのつながりがある地域の場合、個人を中心に何重もの人の輪が広がり、さまざまな困りごと、矢印の方向に進むにつれ、小さなものは解決していき、大きな困りごとのみが課題として明確になってきます。

このような体制づくりを行っていくことで、人々の心が通いあい、人のぬくもりが感じられる地域へと変化してくるのではないかと考えます。これが私たちの目指す地域の姿ではないでしょうか。

地域の環境美化について考えると・・・



千鳥地域では「隣近所の付き合いを深めるための道をつくりたい」ということで地域の人々が集まり、平成 17(2005) 年に「隣道（りんどう）の会」を立ち上げ、身近な問題であるゴミ問題に着目しました。

この会では、月に 1 度小学校の下校時間にあわせてゴミを拾う活動を続けながら、地域の気になることについて話し合っています。地域の困りごとはまず地域で解決できないか・・・と皆で考え、できることからやっいていこうとする過程で、人と人とのつながりは確実なものになってきています。

地域福祉は、一人ひとりの小さな力が決め手です

地域福祉を推進するには、大きな力を持つ一人の人に頼るのではなく、地域に住む私たち一人ひとりの小さな力が合わさることが重要で、これが思いもかけない威力を発揮します。個人で、家族で、また地域のなかで、自分達にできることは何か・・・皆さんも一度話し合ってみませんか。

●●● 「わたしのちいきふくし」 10 ケ条を作ってみましょう！ ●●●

「わたしのちいきふくし」という言葉を頭に「10 ケ条」を作ってみましょう。自分の住む地域をより豊かな地域にするためにできることは何かをテーマに作ってみたり、『自分の地域がこんな地域になってほしい・・・』ということテーマを作ってみたりしましょう。

わ	
た	
し	
の	
ち	
い	
き	
ふ	
く	
し	

* 「隣道の会」版『わたしのちいきふくし』 10 ケ条 *

わたしとあなた仲よしこよし
たのしい集まり地域のわ
しあわせは自分でつくりましょう
のんびりゆっくりあせらずに
ちどりは楽しいまち
いきいきとみんなで楽しく過ごしましょう
きれいにしましょうわたし達のまち
ふふふ笑う門には健康来たる
くるしいときこそみんなの力
しあわせは明日をささえる大きな力 みんなで仲よくいたしましょう

毎月 1 度、20 名近く集まり、地域で清掃活動をしている「隣道（りんどう）の会」。会の取組を通じて感じたことについて全員で考え、短時間のうちにこのような 10 ケ条にまとめることができました。

一人ひとりが気負わず、自分達でできることを地域の中で楽しみながらやっいていく・・・このことが地域福祉の推進につながっていることが伝わってきますね。

古賀市地域福祉計画
〈ダイジェスト版〉

『こまったときはお互いさま、たより合えるまち。』

